

府中市環境基本計画市民検討会総括表

参考資料2(平成24年度市民検討会)

重点施策	第2回市民検討会	第3回市民検討会	第4回市民検討会	第5回市民検討会	第6回市民検討会
「水と緑のネットワーク」を形成し、自然を守り、育てます。	● 水辺空間としては、多摩川・用水路⇒用水路は市内に約160kmあるがほとんど暗渠にしまい、水辺空間としての役割を失ってしまった。 ● サントリー周辺の雑田堀用水の整備が必要。 ● 市民の憩いの場所として、水辺整理が必要。 ● 水辺の保全には、市民ボランティアの力が必要。 ● 市民ボランティア育成の必要性を、もっと、関心を持ってほしい。 ● 街中の低木の取り扱いを考えたほうがいい。(安全面、維持管理面) ● 浅間山の保全(生物多様性の観点から)が必要。 ● 現地調査を行い、浅間山を手入れする事によって、貴重種が保全できる。 ● 武蔵公園の位置づけが必要。 ● 府中米軍基地跡地は手が付いていない。 ● 崖線の保全については、東京都がイニシアチブを取って進められている。		● 緑地の保全は、重点施策から外せない。 ● 景観問題をどう維持させるのか。 ● 象徴的なものにこだわらない方がいい。 ● 浅間山からグリーンベルトを作ろうという動きは昔あった。このグリーンベルトを作りながら、府中市全体の緑を保全していきたい。 ● 府中市は景観行政団体となっており、5つの推進地区が景観形成地区に指定され推進地区に指定されている。 ● 景観としての位置づけの方が大きいのかもしれない。	● 文言は、『「水と緑のネットワーク」を形成し、府中市の自然環境を守り、育てます。』という表現でいいと思う。 ● 頭のところは、これでいいと思うが、「水と緑のネットワーク」と言うのは何かという事をこの下のところでもいいので、定義しておかないとわからないと思う。 ● 「水と緑のネットワーク」と言うのは、間違いなくキーワードにはなると思う。 ● 都市マスの中で、今維持されている水と緑があるけれど、この考え方を踏襲するのか、広げるのか狭めるのか、そういった考え方があってもいいのかと思う。 ● キーワードの中に抜けているのが「生物多様性」と言うのが抜けている。生物多様性基本計画ができており、各市町村で今後生物多様性地域戦略を策定していないといけなことから、非常に重要である。この文言は外せないのではないだろうか。 ● 2番目ぐらいに「生物多様性」については、別出ししておいた方がいいと思う。	● 基本的には、いいと思うが、全体の調子をどう合わせるかという事で、頭のところの「府中市の」というのは、そういう表現がいいのか。 ● 重点施策の中で、府中市の、と言う言葉が出てきたり出てこなかったりするので、取ってしまってもいいのではないか。府中市と言う言葉が無ければ、文章が成り立たないのは残していいと思うが、必要が無いのはいらないと思う。 ● 「水と緑のネットワーク」を形成し、と言う言葉と、自然景観を守り育てます。と言う言葉の2つの内容を言おうとしている。頭に自然環境である水と緑のネットワークが出てきて、次に自然景観が出てきているけど、それでいいのか、どう使い分けるか。 ● 水と言うのは多摩川、緑と言うのは崖線で、そのネットワークをキーとして、その周辺の公園や緑と言ったものを構成したものをネットワークと言うんじゃないか。そう見ると、緑のグリーンベルトを形成していくのと、景観としてみるのと別なニュアンスになると思う。 ● 「水と緑のネットワーク」を形成し、自然を守り育てます。という表現けでもいいんじゃないだろうか。 ● ネットワークについて、どうするのかとすると、すでにネットワークができていないんじゃないだろうか。 ● ネットワークについて言うと、ネットワークの形成をするという事が、緑の基本計画に書かれているわけなので、今後も、街路樹とかも整備していくし、管理もしていくとか、そういう事だと思う。 ● マンション等が立って、緑のネットワークが分断されるのを止めて、緑のネットワークに位置づけるという事になれば、保全の仕方も変わってくる。そういうのが、むしろ、これからネットワークと言うのは、整備されてこないといけない。 ● 人と自然が共生したまちではなく、人と自然が共生するまちの方がいい。 ● 生物多様性の保全と言うのが、府中市の地域戦略に係ってくると思うので、それをコメントに入れられるかどうかになる。 ● 生物多様性の保全について、何をするのかと言うと、この場でも提案されるし、審議会でも議題になると思う。それを受けて、市がどのように対応していくのかという事にもなると思う。 ● これに基づいて、市が何をやっていくのかという事である。
生物多様性の保全に向けた行動を推進し、人と自然が共生したまちをつくりまします。					

重点施策	第2回市民検討会	第3回市民検討会	第4回市民検討会	第5回市民検討会	第6回市民検討会
府中市のまちを特色づける、歴史的景観を保全します。	● 崖線沿いに神社が多く歴史的景観を保全したい。 ● 街中の緑は、決して多くない、ケヤキ並木のイメージで多いと思っている。 ● もっと積極的に民間地の緑化を進めたい。 ● オープンガーデンを促進したい。 ● ケヤキ並木の保全は車両規制必要であるが、関係機関との調整が困難となっている。		● 象徴的なものにこだわりすぎではないのか。 ● 府中市は景観行政として、5つの推進地区を設定している。 ● 大国魂神社は、宗教法人の持ち物なので、表現を変えるか削った方がいいと思う。 ● 自然と風景の思いは入れたい。 ● 景観問題を環境基本計画にどう含めていくのかという観点で考えなければいけない。 ● 歴史は、府中市らしさの表現の一つであるので、外せない。逆にPRしていきたい。 ● 大国魂神社だけでなく武蔵府中熊野神社古墳も発見されている。	● 総合計画に出てくると思うが、それとの整合を図った方がいい。 ● 歴史的景観なのか、史跡なのか。 ● あえて文言を変えなくてもいいと思うが、「先人たちが」という言葉は新たな言葉だがあえて入れなくても、もっと短い言葉でもいいと思う。 ● 遺跡と言うと、大国魂神社が怒ると思う。 ● 環境基本計画で、歴史的景観がクローズアップされてしまうと、例えば、緑の景観と言うのはどうするのかということになる。 ● 景観条例があって、それが、環境基本計画の中で取り扱っていれば、その位置づけをわかりやすくできる。だから、景観と言う言葉は入れた方がいいと思う。	● 現行計画では、『府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全します。』であったが、もう少しシンプルに表現し、『府中市のまちを特色づける、先人達の残した歴史的景観を保全します。』すればいいのではないか、先ほど、府中市を抜くという事もあったが、ここでは、府中市のまちを特色付けけるという事で、表現した方がいいと思う。 ● 本宿の遺跡があるが、それを遺跡と言って、いいのかどうか。 ● それは、歴史的景観と言うよりも、遺跡そのものではないだろうか。 ● 遺跡を残すというのは、環境基本計画の範疇なのか、そうでないのか。文化財保護は、別の法律だから、そこを間違わないようにして、ここでは、あくまでも環境問題について取り上げて、景観と言うものを重視して、建造物そのものを保全するというのは違うと思う。 ● 歴史景観と言っても、そういった遺跡等について範疇外といって、切っちゃうわけでもないで、そういった設えも守っていくという事でいいと思う。
快適に安全に歩け、自転車に乗りやすいまちをつくります。			● 自転車の法規制が厳しくなっているにもかかわらず、市民に周知徹底されていない。 ● 安全運転が進まないのは、未だに携帯を使いながら運転をしているなど、自転車のマナーの問題が大きい。 ● 桜通りの木が大きくなりすぎているため歩きづらいが、車道を自転車が行くのは危険な道路であるため、将来的には、歩行者と自転車を分離した整備をしたい。 ● 自転車通行可の標識の整備が遅れている。 ● 自転車が通行しやすい道路に整備していきたい。 ● 道路を拡幅できないのなら、一方通行等の交通規制で対応できないか。 ● 自転車対策について対応する部署を明確にし、推進する必要がある。（自転車対策課を作って取り組むべき） ● マナー、ルールの指導・取締りは、警察になるため、警察とのタイアップが必要。 ● 歩行者が、自転車の方が強いと、邪魔にされている。 ● けやき並木通りの自転車レーンは、自転車と歩行者がごちゃごちゃになっているため、整備し直す必要がある。 ● 環境基本計画の重点施策で掲げている、「歩きやすく」「自転車に乗りやすい」は、現状では矛盾している。	● 他の文章と調子を合わせるという意味では、「地球環境の保全と、市民の安全を視野に入れ」と言うのはいいと思う。 ● 「自動車に依存しないまち」と言うのが、どこから出てきたのかという事で、ちょっと言い過ぎじゃないかと思う。 ● 「快適に歩けるまち」と自転車をどうするのかと言うのがあるけれども、「つくります」と言うのは、まちづくりじゃないんだから「すすめます」の方がいいんじゃないか。 ● 「自動車に依存しないまち」と言うのを入れると、これから府中市で作る道路は、その考えで進んで行ってしまう。表現をうまく使わないと、言葉だけ独り歩きしてしまう。 ● 「安全」と「快適」と言う言葉は、検討会の中でよく出てくる言葉である。 ● バリアフリーの考え方も検討会で出てきた言葉である。	● 表現を少しシンプルにして、『誰もが快適に安全に歩けるまちをつくります。』という表現はどうか。 ● 歩けると、歩行者がメインで、自転車が消えてしまう、自転車をメインに表現した方がいいんじゃないか。ある程度、自転車を表現しておかないと、今自転車問題がクローズアップされてきているので、もう少し強調しておいた方がいいと思う。 ● 地球温暖化等の問題で、前回は自動車を控えて自転車使いましょうという流れがあったけれど、逆に自転車が危険だぞと言う流れが前面に出てきたような感じで、少し、自転車を推奨するという感じの発言が減ってきている。 ● 要するにマナーを守って、歩行者が安全に歩けるという表現を入れると自転車も入るんじゃないか。 ● 基本的考え方で、CO₂を減らすために自転車を乗りなさいよと言うのか、歩行者の安全と言うのか、どちらも重要だと思うけど、どちらか一方に決めつけてしまうと片手落ちになってしまう。 ● あくまで、環境についてだから、単なるバリアフリーとかちょっとかみ合わない。重点項目の中でも、これは、異質だと思う。これが、10年後を見据えた時に市民にどうやって訴えていくのか難しいと思う。 ●

重点施策	第 2 回市民検討会	第 3 回市民検討会	第 4 回市民検討会	第 5 回市民検討会	第 6 回市民検討会
			● メイン通りぐらいは、１０年かかっても自転車レーンのやらないといけない。 ● 税務署前の農工大の田んぼのところは自転車専用レーンを新しく設置している。 ● 旧甲州街道を一方通行にしまえば、歩道をもう少し広くできるし、場合によっては、そういう方策をとって、整備するだろうがあってもいいんじゃないか。 ● 対策として、中央線を消して、あれがあるために余計狭くなっている車も自由に通れるし、歩行者も避けて通れる。 ● やろうと思えばやれる、要は、やる気の問題と金の問題である。 ● 都道のバリアフリー化は、道路管理者が東京都になるため難しいが、逆に言うと、府中市の市道であれば、やろうと思えばバリアフリー化はできる。そのためには、道路の幅員をちゃんと取る必要がある。 ● 桜通り等は、一方通行にして、自転車レーンや歩道の拡幅をしたい。 ● 高齢者向けのマナーの指導を進めるべき。 ● 自転車レーンを設置してもそれを守らなければ意味が無い。 ● 小中高生の自転車マナーをどうやって教育するのが重要である。 ● 構造的な部分で、大規模開発するとき、市全体のプランが無いために、歩道がブツ切れの道路になってしまう。現在のルールでは、市は指導できないため、市全体のプランに則った、整備をさせるよう条例・指導要綱等の整備をする必要がある。という事を環境基本計画で書き込めれば、市も整備しやすくなる。 ● 市の施策は、環境基本計画の施策を受けてやっているの、書かないとやめてしまう可能性がある。 ● 快適性・安全性の観点からも歩行、自転車利用を推奨していく。 ● 本当は、車も含め交通安全の問題、西原町（７小付近）に道をまげて、歩行者にやさしい道路を作った。 ● 道路のバリアフリー化は重要。 ● 数値目標を設定したい。 ● 地球温暖化の問題からも推進していくべき。		● 環境という事では、何でも入ってくるので、バリアフリーとか安全に歩ける道づくりとかも入ってきてもおかしくはない、ここで言っているのは重点的にやるのかどうか、基本的施策に入ってきてもいいと思う、重点的にこれをやるのかどうかと言うところなので、重点的にという事であれば、車社会からの脱却と言うところを明確にするべきだと思う。 ● 自転車について取り上げると、ちゃんと自転車を通れるようなレーンの問題と、駐輪場を整備して街の中で、自転車が市民権を持てるような状況にするというのが必要。人と自転車がどうやって共存していくのか表現するのか、これからも必要と思う。 ● 今の議論で、もう一度、自転車の文言を復活させるかどうか。 ● 例えば、『誰しもが快適に安全に歩けるまち、自転車に乗りやすいまちをつくります。』とすれば、２つ入ってくる。 ● 誰しもと言うのは、いるのか。 ● 誰しもと言うのは、いいと思います。 ● 大きく、括っていた方がいい、いくらでも大きく解釈できる。 ● 一般市民が見て、パッとわかるかどうか、これを基に具体的施策を立てていかないといけない。 ● 二つ何々のまっちゃって出てくるので、『誰しもが快適に安全に歩け、自転車に乗りやすいまちをつくります。』としてはどうか。 ● 誰しもが、と言う言葉を普段使わないが、例えば、誰もがとか、全ての市民がとか、構えない表現を使った方がいいんじゃないか。 ● 誰しもがと言う言葉はいらないのではないか。
放射性物質を含む有害化学物質について対応策を推進し、安心して市民が暮らせるまちをつくれます		● ダイオキシン類の問題はない。（小型焼却炉がない） ● 有害化学物質について、放射能を項目に追加すべき。 ● ダイオキシン類は土壌に蓄積している。 ● 行政からの情報が乏しい。 ● 実態として、有害化学物質の問題はあまり発生していない。	● ダイオキシン類は、有害物質に表現を変える。その中の頭に、放射性物質を加える。 ● 放射性物質を取り扱う必要がある。 ● 野焼き問題でダイオキシンの問題はありますが、今大きな話題になっていない。 ● 表現は別として、重要な事項である。	● 「新たな」と言う言葉はいらない。 ● 今までの公害と言われていたものは、重点施策で表現しなくていいのか。そうであれば、個別目標に入れていくべきである。 ● 「公害のないまちづくりを目指します」「公害問題」と言うのは、入れたほうがいい。 ● 「放射性物質等」を入れたほうがいい。	● 対策ではなく、対応策にしてはどうか、対応策と言うのは、いろんなことを想定して、策を考えるという事だから。 ● 放射性物質の市民の考え方や知識を身に付けておくという事が必要だし、放射性物質の対応と言うのはそこが重要になると思う。 ● 市民に対する啓発という事が重要と思う。

重点施策	第 2 回市民検討会	第 3 回市民検討会	第 4 回市民検討会	第 5 回市民検討会	第 6 回市民検討会
		● 最近できている高層マンションについて、ディスポーザーが付いているマンションがあると思うが、規制はかけたい。 ● マンションでゴミ処理機を設置し、補助を付けるべきである。 ● 生ごみを何とか再利用する方法をできれば提案してほしい。 ● 大規模なマンションを建設するときにごみ処理機を設置するよう指導して、市が補助するべきである。 ● 現在、リサイクルプラザを受け入れている住民は、これ以上の負担は受け入れられない。 ● 放射能の問題で、横田の基地から放射能のものを運搬しているんですよ、問題なのは、どれくらいの量をどこに運んでいるのか、秘密にやっているのかわからない、それがもし、事故があったらどうするのか、そういった時の事故対応を今考えておかなければならない。		● 時代として、「放射性物質」と言うのはわかるが、府中市の対応としてどうなのかと思う。重点施策として、何らかの行動を起こすときに何をするのかよくわからない。基本目標の中にある、公害の中で、悪さのトップが重点施策が来るのが普通であると思う。重点施策に「放射性物質」とあっても、今後、何も対策出来ないという事はないのか。 ● 「放射性物質」以外に、府中市で公害関係で、なにか重点的に対策しないといけないことがあるのならば、「放射性物質」と言うのを別出ししてもいいのかもしれない。 ● 市民に安心感を与える意味では、線量計を貸し出すというのはいいと思うが、ここで言っているのは、顕在化している問題点に対してなので、まだ、府中市に顕在化していないのであれば「放射性物質」は、別扱いと思う。 ● 「放射性物質」の話と言うのは、キーワードとして重点施策でいるのと、それをひとくくりにできるものなのかという事を全体を見た時に考えないといけない。	● 有害物質と放射性物質を分けているが、そういった意味では、本来は、同じだと思う。自分の住んでいるところの隣で何か起こったら、過剰反応するから。 ● 2つを分けて言うややこしくなるので、有害物質の中に放射性化学物質も含まれるという事で表現した方がいいかもしれない。 ● 並べて書いた方がいいんじゃないか。 ● 有害物質も放射性物質も一般の人は、何が何だかわからないわけで、前のダイオキシンと言うのもわかっていない。だから、大きく書いて、市民に対しては対策として、なにになにと書いた方がいいのではないか。
市民一人ひとりが、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進し、ごみの少ないまちをつくれます。		● 現行計画での 50%達成の目標は、絶対量がわからない中で設定されている。 ● リサイクル日本ーを目指す目標設定をしたらどうか。 ● リサイクル日本ーについて、定義があいまいである。 ● 費用対効果で、目標設定すべき。 ● ごみの分別は、市民意識の問題である。 ● 集合住宅のごみ分別できていないのは問題である。 ● 減量化については、人口比でも 50%減を目標とすべきである。 ● 生ごみを減量化に向け、コンポスト化について購入補助をするべきである。 ● 生ごみを減らそうというチラシで啓発していきたい。 ● 集合住宅の減量が数値的にわかりにくい、エリア的に把握したい。 ● 自治体がまとまっていれば、協力的になる。 ● 三多摩地区で最もごみが少ないのは評価していい。 ● 資源ごみを業者が勝手に回収しているので、規制の条例を設定すべきである。 ● ごみ削減運動として、モデルマンションを指定したい。 ● テストケースとして、集合住宅でコンポスト化し効率化を図りたい。 ● ごみ削減に向けて、総量規制ではなく、一人あたりの排出量で目標を立てる方がわかりやすい。 ● 高層マンションのディスポーザーを導入に規制をかけられないのか。	● ごみ問題は、必ずやらないといけない。 ● ごみの指標は、1人当たりの排出量で評価する方がいい。たとえば、ごみは 500g/人日、リサイクル率は 40%以上等の表現を出したい。	● ごみ問題は、絶対に重点施策に入れていけないといけない。 ● 表現は、『3R（リデュース、リユース、リサイクル）を確実に推進し、ごみの少ないまちをつくれます』でいいと思う。 ● 3Rが新たな重点施策になるのは、今まで、ずっと、やってきている内容だと思う。 ● ごみ問題を語る上では、3Rは必須だと思う。3Rはバランス良く進めていくべきで、継続的な施策と思う。 ● 3Rをもう少し重点施策っぽく表現できないか。インパクトの表現が欲しい。 ● 最優先のものをもっとはっきり打ち出せばいい。 ● 生ごみの排出量が多いので、もっとはっきり言った方がはっきりわかっていい。 ● 生ゴミの次に多いのが、梱包材なので、そここのところを表現できれば現実性が出てくる。 ● 1人1人がルールも守るという事ができれば、もっと推進できる。	

重点施策	第 2 回市民検討会	第 3 回市民検討会	第 4 回市民検討会	第 5 回市民検討会	第 6 回市民検討会
自然エネルギーの利用や省エネルギーを推進し、二酸化炭素排出量の削減に努めます。	● 資源エネルギーの推進とあるが、進捗の目安となる資料が欲しい。 ● 自然エネルギーのデータが無いため、どれをデータとするか基準がわからないので比較できない。 ● 調査をしてどこかの基準を設定する必要がある、国の調査内容を調査すればわかるかもしれない。 ● 太陽光発電に対しての補助を行っていないため、住居に対する太陽光パネルの設置データがない。 ● 建物を新築する場合、例えば、緑化率を求められるが、太陽光パネルを付ければ、緩和するといった施策が必要である。 ● ソーラー発電、太陽熱について一戸建てに義務化してもよいのではないか。 ● 市内 4～5 万戸建世帯のうちの半分の戸建てにソーラー発電を設置できれば凄い期待できない。 ● 集合住宅にも設置していきたい。 ● 本来は、公共施設関係で自然エネルギーの利用を進めるべき。 ● 災害時の電力確保として、環境のみでなく防災対策としても必要である。 ● 民間を着工促進させるため公共施設から始めたい。 ● 下水処理場では、計画停電はできなかった。できないのではなく、計画停電が起こっても、対応できるのが本来の姿だと思う。 ● 東京都の水再生工場では、広大な面積があるので、そこで、パネル設置はできないだろうか。 ● サントリー武蔵野ビール工場は、敷地面積が足りず困っている。屋上にも設備が一杯の状況なので余裕はない。 ● 東芝府中の方が可能性がないか。東芝府中は、発電機をメインにした事業所でもあるので、本来は先行して始めてほしい。 ● 今はやりのメガソーラーを設置するためには、1～2ha 以上の敷地が必要である。それ以上ないと、収益の関係で難しい。 ● 風力は、府中市には向かない、太陽光が最適である。 ● 府中市四谷では、小水路発電を市が実験中、ただし、設置のために複雑な手続きが必要となっている。 ● 市内には用水路（府中用水等）が多いので、それを利用したい。 ● 省エネルギーの推進をどのように表現するかが問題である。 ● 府中市は、省エネルギーの管理をしていない。 ● 電力消費は、企業よりも一般家庭に多い。 ● 公共交通を利用することで、乗用車の利用を減少させるのに有効である。		● 1990 年度比 2020 年までにー15%は、地域推進計画で決まっている。 ● 毎年、母数の数値が変わってくるのが目標設定に問題である。	● 『自然エネルギーの利用や省エネルギーを推進し、二酸化炭素排出量の削減に努めます』と言う表現でいいと思う。	

重点施策	第 2 回市民検討会	第 3 回市民検討会	第 4 回市民検討会	第 5 回市民検討会	第 6 回市民検討会
	● 利用者のニーズに応じた『ちゅうバス』の整備が必要、また、交通弱者のためにも『ちゅうバス』が必要である。 ● 市内の交通網を張り巡らすことができ、そのために税金を投入することになったとしても、省エネになったり、高齢者のためになるのであればいいのではないか。 ● 拠点病院への交通手段として必要である。 ● バスを運行するために道路を拡幅しないと通行できない箇所がある。 ● 『ちゅうバス』はパワーがないため、急勾配で登れない道路がある。 ● 環境家計簿は、10 年ぐらい前にやったけど長続きしなかった。もっと、シェーブアップして、PC 等で使えるようにすれば、もっと普及すると思う。				
防災、ヒートアイランド対策等の多面的機能を持つ農地を残していきます。	● 府中市の農地は全体の 5%程度で、減少している、このままいくと、30 年後には、農地が無くなる。 ● 農地ボランティアの育成は重要である。 ● 市民農園は人気がある。 ● 体験型農園を促進していきたい。 ● 農地保全して、継続する仕組みにはなっていない。 ● どうしたら、農地を保全していけるか、農業学校・農業公園等の施策を講じるべきである。 ● 地産地消として、直売所は、各地に数カ所あり、地元スーパーで地元野菜が置いている。 ● 農業がなかなかやる気が出ないことをなんとかするののかという事は、ものすごく難しい、特に、相続の関係で後継者がいないとなかなかやる気が出ないのが問題。 ● 農業公園を整備するというのも重要ではあるが、本来は、ビジネスとして成り立つ農家を考えるためには、子供や孫がそのビジネスをしようとするのが重要だと思う。 ● 崖線のところで、西府崖線の湧水はそこも保全していきたい。 ● 環境用水のところでは、用水については農業者の方が実際に管理をしているので、市としても十分に施策として実施しないと、なかなか前に進めない。		● 農地の持つ多面的機能を表現した方がいい。 ● 毎年 4ha ずつ減ってきており、あと、30 年するとなくなってしまう。これを、数値化して保全しないと、取り返しがつかなくなる。 ● 農地は、個人の所有なので法規制をかけることは難しい、ヒートアイランド問題、防災、避難場所の視点で表現したい。 ● 農地は、ものすごく重要だけど、位置づけや表現方法を変えたほうがいい。 ● 農地を残したいのであれば、産業振興として、儲かる仕組みを作ってあげるべきである。 ● 府中市農業振興計画は策定されているが、まだ中間報告がされていない。	● 「環境保全」と言う言葉が引っ掛かる。 ● 「多面的機能を持つ」ではないだろうか。	● ヒートアイランド対策等農地の多面的機能の問題で、クローズアップされてきており、まさに環境問題の緑の一部として農地を残していくんだよと言う風に変わってきているので、その辺を含めた表現という事で私はこの『多面的機能を持つ農地を残していきます』と言う表現でいいと思う。 ● ヒートアイランド対策・防災機能の持つ、と言う言葉を入れたらどうか。
学校をエコスクール化するとともに、環境教育・学習を推進します。		● 小学校の芝生化について、ちゃんと管理できているのか心配である。 ● 学校として、芝生化のニーズはあるのか。 ● 芝生化を実施した学校の検証が必要。 ● 芝生化・ビオトープ・エコスクールは、校長、教頭の意識の問題。 ● エコスクールは、定量的な管理が必要。	● 芝生化は、全ての学校で実施すべき。 ● 東京都から補助金が出ているが、市は消極的である。ただし、検討会、審議会では強く希望している。 ● 府中市全体で、環境教育を推進していくべきであるが、プログラム化がされていないため、学校間で差が出てきている。		

重点施策	第2回市民検討会	第3回市民検討会	第4回市民検討会	第5回市民検討会	第6回市民検討会
		● 新エネ・省エネを公共施設が率先することが必要。 ● 公共施設が減らすエネルギー量を公開することが必要。 ● 現在、校庭の芝生化を推進しているところは、現在7校実施されていて、メンテナンスの体制がしっかり固まったところから始まっている。 ● 校庭の芝生化が実施されているところは、維持管理の体制が決まっているところしか東京都から補助金が出ない。 ● ビオトープは、維持管理の問題で難しい。ビオトープを専門に指導していただける方がいない。 ● エコスクールについては、太陽光発電を積極的に設置するよう進めている。第3中学校は、現在設置されているが、今後、建て替え等に合わせて設置していくことと思う。	● 環境基本計画で表現することはエコスクール化に貢献が大きい。 ● エコスクールが重要と表現して、その中に芝生化を入れる。 ● エコスクールは削れない。 ● 表現は、エコスクールと言わずに環境学習に変えた方がいいかもしれない。	● 『学校をエコスクール化するとともに、環境教育・学習を推進します』と言う表現でいいと思う。 ● 「子供たち」と言うのは、中学生が入っているのか、表現として、「子供たち」を切った方がいい。	
環境を学ぶ機会を積極的に創出し、環境問題に対する興味や関心の向上を図ります。		● 府中の森・浅間山等は、維持できているのか疑問である。 ● 自然があれば、子供を連れて行きたくなる。 ● 場はあるけれど、学ぶことができない。 ● 府中市の環境学習が進んでいるかわからない。 ● 校長等の意識によって環境学習や対応は、温度差がありまちまちである。 ● 保全センターの予算は、的を絞って付けてほしい。 ● ビオトープを整備してほしい。 ● センターのノウハウが無ければ、ボランティアを使えばいいのではないか。 ● 市民の環境学習のニーズは少ない。 ● 団体の横の連携は、今後強化して欲しい。 ● 保全センターの活用をもっと積極的にすべき。 ● 環境講座等の広報（宣伝）が市民に留まりにくい。 ● 環境活動センターはすごい役割を持っている。市民も事業者も場合によっては、自治会も使っていて、特に小学校の環境学習についてセンター主体で進めて欲しい。 ● 事業者の連携については、『打ち水作戦』については、全面的に事業者が支援してくれた。ああいう、事業者の連携をやれば、多くの方が参加できると今回感じた。そういった意味で、やる気を持って、話を持っていけば、全面的にやってくれるんだなと思った。 ● 今後、環境活動センターが大きな役割を果たすよという事は、個々の学校なり市民なり事業者なり、それを繋げていってくれるのがセンターといことが今までの感想である。	● 活動センターを表現すべき。 ● 生涯環境学習の重要性を表現したい。	● 初めて、各主体と言う言葉が出てきたが、この表現でやるのかどうか、これは、市民・事業者・行政という事だと思うが、その言葉に戻した方がわかりやすいと思う。 ● あらゆる主体と言うのは、伝わりにくい。 ● 「あらゆる主体」と言うのを抜いた方がいいかもしれない。 ● 『全ての市民の環境を学ぶ意欲の向上を図るとともに、市民・事業者・行政が連携し環境学習の機会を積極的に創出します。』のニュアンスでいいかもしれない。 ● 意欲の向上と学習の機会の二つを言いたい。 ● 「意欲の向上」と言うのは、ココロの問題で、「機会の提供」と言うのは、客観的な話。どちらかと言うと、客観的な話で意欲の向上を図るんじゃないか。 ● 書き方としては、「学ぶ機会を多く提供することで、環境に対する意欲を高めていく」と言う感じがいいと思う。 ● これからは、企業が地域の環境保全活動に積極的に金を出して進めていくのが、企業としての責務があると思うが、なかなか企業も予算があるので難しい、やれるところは、やっている。企業との連携は、非常に重要と思う。 ● 出来るだけ端的に表現したい。	

重点施策	第 2 回市民検討会	第 3 回市民検討会	第 4 回市民検討会	第 5 回市民検討会	第 6 回市民検討会
府中市環境保全活動センターを活用した市民等のパートナーシップを構築します。		● 企業は、目的・目標が一致しないと連携できない所もある。 ● サントリーでは、環境専門の水育と言う部門がある。 ● 企業の環境意識は、高い。（地域の清掃活動等に積極的に参加等） ● 現行の環境基本計画で定めたパートナーシップは、築き上げたとは言えない。 ● 市民も達成感があるから集まる（協力する）のではないだろうか。 ● 環境保全センターが、市民・企業・行政の橋渡しを担ってほしい。 ● 集合住宅は、管理組合で進められないか。 ● 自治会・町会を活用できないか。 ● 府中と言う会社として考え、何をするのか見出していきたい。	● 市民・事業者と行政の協働、連携をきちっと位置づけなければならない。 ● 農工大の収穫祭、田んぼの学校等を通じて、学校との係りを表現したい。	● 環境活動センターは、タイムリーな話題だが、今後 10 年間続くとは限らない。これだけでいいのかと思う。 ● 環境活動センターは、現行の環境計画でも謳われているし、地球温暖化推進計画においてもここを母体として推進していくというように、あらゆる計画で出てきている、環境推進のためには、この言葉を入れておくのは、非常に重要である。ただ、推進する母体に金が無いと何もできないので、こういうところで、ちゃんと予算を付けるためにも表現したほうがいい。	● 文言は、『府中市環境保全活動センターを活用した市民等のパートナーシップを構築します』でいいと思うが、環境保全活動センターを完全に盛り上げて、これを中心としてやっていかないと絵に描いた餅だね、って言われそうな気がする。 ● それは、今後の市の盛り上げ方になってしまう。 ● 本気になって、市がどれくらい取り組むのかという事で、また、市民がどこまでバックアップできるかという事になる。 ● ここに、府中市環境保全活動センターと言う言葉を入れておかないと、よりどころが無くなってくるので入れておいた方がいい。
その他			● ISO14001 を重点施策に入れていきたい。 ● ISO14001 の位置づけができていいのか。と言う観点から、環境基本計画を連動させる必要がある。 ● 数値目標を設定し、管理する必要がある。 ● 現況の数値が上がってこない。 ● 今回の環境基本計画では、全ての項目に数値化したものを入れていきたい。 ● どの施策をどの課がやるのか明確にする必要がある。		